



市立室蘭総合病院 広報誌

くじらんネット

病院の理念 おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

- ・信頼される医療を持続的に提供します。
- ・自治体病院としての役割と責任を担います。
- ・経営の健全化と効率化に努めます。

最近話題の循環器疾患

循環器内科部長 兼 人工透析担当部長

ふく おか まさ ただ
福 岡 将 匡



加齢に伴い発生率が増加する心房細動は、血栓塞栓症、特に脳塞栓症の大きな危険因子です。現在ガイドラインでは、リスクを減少させる治療法として抗凝固療法が推奨されていますが、副作用の点から、虚弱高齢者への適用には消極的な意見も多いです。

抗凝固療法で使用されるワルファリンは多くの薬剤と相互作用があり、服用中の薬剤や新しく追加する薬剤との相互作用に常に神経を尖らせておく必要があります。虚弱高齢者は服用薬剤の数や種類に変更が多い傾向があり、また抗菌薬が処方される機会も多いため、特に注意が必要です。人によっては薬剤や検査、通院のコスト（費用）も無視できません。また、ワルファリン服用患者はビタミンK含有食物の摂取を控える必要があり、納豆やクロレア、青汁などの摂取制限が高齢者のQOL（Quality Of Life：生活の質）を低下させることもあります。

数年前より、容量調節があまり必要のない抗凝固療法を使用する機会も多くなり、ビタミンK非依存性なため、納豆など食事の制限が少なく、患者さんの負担は軽減しています。ただしワルファリンに比べると薬剤費に割高感があります。また腎機能の低下した患者さんや、透析患者さんなどには使用できません。虚弱高齢者の抗凝固療法に関しては、従来の医学的リスク／ベネフィット（危険性／有効性）分析だけでなく、転倒リスクや認知機能、社会的サポートを含めた包括的高齢者評価、薬剤管理やQOLなど実に多くの要素を総合的に検討した上で、覚悟を持って「主治医としての意見」を用意すべきだと考えます。

もちろん「ベネフィット（有効性）が大きければリスク（危険性）も大きい」という、多くの臨床ジレンマに満ちた高齢者診療において、結果的に「正しくない選択」をしてしまうかもしれない不安はいつも付きまといまいます。しかし最も大事なことは、虚弱高齢者の主治医として患者や家族、他の医療スタッフと徹底的に意思疎通を図り、ジレンマや不安を共有し、強固な信頼関係を築いておくことです。なぜならそのことこそが、高齢者医療における不確実性に対する唯一の方法だからであると考えます。

シリーズ 健康講座

第30回

《 外科・消化器外科 》

乳がん検診を受けてみませんか？

外科・消化器外科 医長 ^う ^の ^{さと} ^こ
宇 野 智 子

<日本の現状>

一生のうち乳がんになる日本人女性は、現在12人に1人と言われ、その割合は年々増え続けています。残念ながら、日本の乳がん検診受診率（50～69歳）はグラフに示すように36.4%と低く、アメリカをはじめとする諸外国の半分以上です。



出典：日本医師会ホームページ
(<https://www.med.or.jp/forest/gankenshin/data/foreigncountry/>)

<検診の対象者>

乳がん早期発見のため、厚生労働省からは「40歳以上の女性に対し、2年に1度、視触診及びマンモグラフィ併用検診を行う」という指針が出されています。検診に加え、20歳以上の女性は月1回の自己触診（自分で乳房にしこりがないか触って調べる）が勧められています。しこりなどの症状がある場合には、検診ではなく外来受診が必要です。

<マンモグラフィとは>

マンモグラフィとは、乳房をプラスチックの板ではさんで伸ばし撮影するX線検査のことです。被ばく量も少なく安全に検査ができ、多くの乳房の病気をみつけることができます。さらに当院では2014年よりトモシンセシスと呼ばれる最新鋭の断層撮影装置を導入し、より精度の高い検査ができるようになりました。

<当院での検診>

胸を見られるのは恥ずかしいという方に少しでも安心していただけるよう、当院ではマンモグラフィ検査は女性放射線技師が担当し、視触診も不在時を除き女性医師が行います。外来看護師も全員女性です。乳がん検診についてわからないことがありましたら、お気軽に外科外来へお問い合わせください。



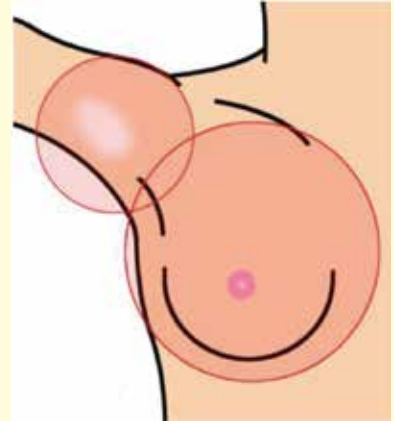
「悪いものがみつかるのではないか」、「なんとなく怖い気がする」、そんな不安な気持ちになり、検診に行くのは勇気がいるという方もいらっしゃるでしょう。しかし、乳がんが体にあるの知らないまま何年も過ごしてしまうほうが、はるかに怖いことなのです。早期発見をすることで治せる可能性がより高くなります。あなたの体、そして大切な家族のためにも、ちょっと勇気をだして乳がん検診を受けてみませんか？

生理機能検査シリーズ No3. 乳房超音波検査

臨床検査科 生理検査係

【目的】

マンモグラフィで異常が見つかった場合、それが良性か悪性かを判断するための情報を提供するのが乳房超音波検査で、乳がんを早期に発見することを最大の目的としています。

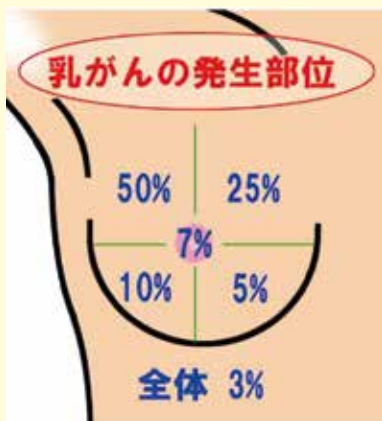


【検査】

上半身の服を脱いでベッドに仰向けになり、皮膚にゼリーを塗って、乳房の内部や周囲のリンパなどを観察していきますが、痛みもなく、妊娠中の方でも安心して検査を受けることができます。

検査中は、画面を見やすくするために部屋を暗くし、女性技師が検査を行います。検査時間はおよそ15～30分です。

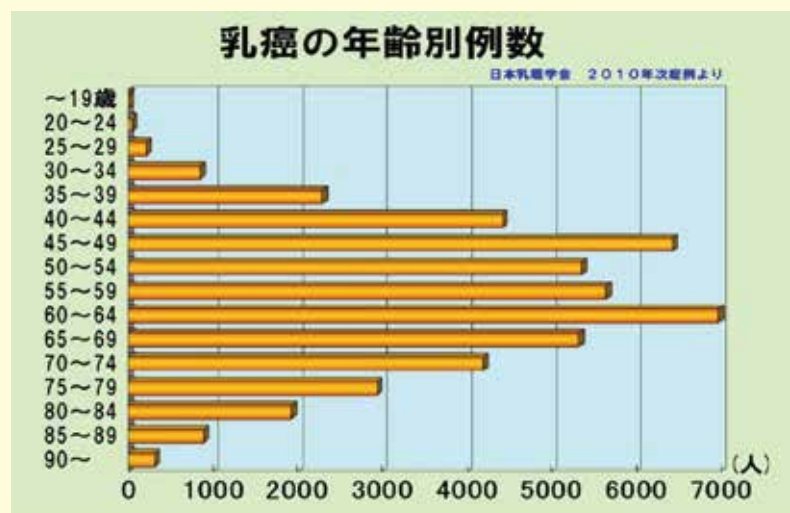
【乳がん】



乳がんは、乳房にある乳腺という母乳を作る器官と、母乳を運ぶ管に発生する悪性腫瘍です。乳房やわきの下にしこり、乳房にひきつれやくぼみ、乳頭に湿疹・ただれ・分泌物、乳房皮膚に発疹・はれ・ただれがあるなどの症状が見られることがあるため、自分で見つける場合も57%と多いのが特徴です。しかし、初期には痛みや体調の悪化などの症状がほとんどなく、検診ではじめて見つかるケースが30%近くあります。超音波検査では、小さな状態で見つかることが多いので、予後のことを考えると自覚症状がなく

ても定期的に検診を受けることが大切です。

乳がんの年齢別例数報告（右のグラフ）では、30歳代から増加し幅広い年齢層で割合が高くなっています。乳がん検診の受診率が高い欧米諸国では、乳がんによって死亡する人は減少傾向にあり、早期発見がとても大切だといえます。定期的に検診を受けましょう！



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016

リレーフォーライフとは、がんに対する様々な思いを「たすき」にのせ、夜通し歩くチャリティー活動です。

今年は8月27日から28日にかけて開催され、当院では「くじらんハート」というチームを組み毎年参加しています。

当日は晴天に恵まれ、多くの職員の協力により朝まで「たすき」をつなぎ通すことができました。

私達は院内のがん対策にも力を入れており、勇気や希望・安らぎを与える場として「がんサロン・ひまわりの会」を開催しています。お気軽に、ご参加下さい。



災害訓練

麻酔科部長 下 舘 勇 樹

9月10日に第8回災害訓練を行いました。災害訓練は災害拠点病院の指定要件の1つであり、定期的実施することが定められています。

今回の想定は「室蘭港に停泊中の大型客船で化学テロが発生し、多くの市民が巻き込まれた」というもので、市立室蘭看護専門学院と各消防署、そして一般市民の方々のご協力により大規模な訓練となりました。このような災害では多数のケガ人を受け入れることに加えて、除染や外国人乗客への対応が必要です。室蘭港へ入港する外国客船が増え、冬季アジア大会や東京オリンピックを控えテロへの警戒が求められる現況では、無茶な想定ではありません。

災害訓練を実施して課題を洗い出し、それを修正して翌年の訓練に備える…毎年の繰り返しは災害拠点病院としてのレベルアップにつながる唯一の方法です。当院は万が一の際にも質の高い医療を地域住民の方々に提供できるように、これからも訓練を続けてまいります。



新任医師のご紹介

10月に
着任
しました

眼科医員

いけだ たけし

池田 毅 医師



市立室蘭総合病院 広報委員会

〒051-8512

室蘭市山手町3丁目8番1号

事務局総務課

TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867

<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/>